



우 리

코챌

우리고장 たからづか

우 리 코챌

우리고장 たからづか

平成16 (2004) 年3月発行
宝塚市総務部 人権啓発課
〒665-8665 兵庫県宝塚市東洋町1-1
TEL.0797-71-1141 (代表)

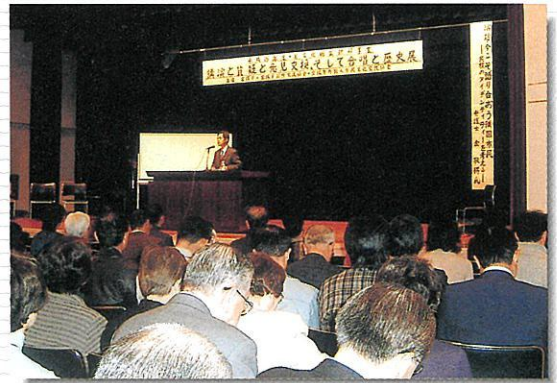
企画・協力 社団法人
大阪国際理解教育研究センター

〈パート3〉

外国人市民と共に生きるまち

宝塚市では、在日外国人と共に生きるまちの早期実現のため、在日講師による講演会、映画とセミナー、写真展示、人権文化センターでの文化祭における出展等、年間を通じての取り組みを進めています。平成15 (2003) 年度の「宝塚における韓国・朝鮮歴史展」は、「今こそ、語り合おう隣国市民～民族のアイデンティティーを考える～」をテーマに講演会を開催しました。講師

キムキョンドク
の金敬得さんは、昭和54 (1979) 年外国人弁護士第1号になった方で、会場の市立東公民館ホールは、多数の市民で満席になりました。歴史展では、宝塚の在日コリアンの貴重な足跡を記す100枚ほどの写真パネルを展示しました。その中には武庫川の洪水や治水工場の現場、荒神川護岸工事など戦前の写真があり、コリアンの働く姿も見られました。



▲「今こそ語り合おう隣国市民～民族のアイデンティティーを考える」講演会の様子(平成16 (2004) 年2月市立東公民館)

宝塚市に在住する外国人市民にとって、本市が明るく住み良い地域社会であり、これからも長く住み続けたいと思えるまちづくりを創造していくために、本市で生活する外国人市民に、自らの歴史、文化、習慣等を背景とした意見及び提言等を求める機関として平成12 (2000) 年9月に宝塚市外国人市民懇話会を設置し、平成14 (2002) 年8月懇話会からの提言書を受けました。その提言の中から、外国人市民サポートコーナーの設立、公共施設の多言語表記等が実現しております。



▲宝塚中学校でおこなわれた「たからづか民族まつり」での、小林こどもエイサー隊の演技

その他にも、外国人市民との相互理解をすすめる「共生」を考える「たからづか民族まつり」が、市民団体でつくる実行委員会によって平成9 (1997) 年から開催されています。在日コリアンとのふれあいだけでなく、沖縄文化のエイサーや料理、日本の太鼓など歌謡・舞踏・食文化を通して市民の交流が進んでいます。

外国人市民が学んだ学校

戦後日本にいた朝鮮人が帰国を考えたとき、子どもが、言葉で困ることが問題でした。各地で言葉の講習所ができ、宝塚でも昭和21(1946)年3月に小浜村安倉に「国語講習所」(ここでいう国語は朝鮮語)ができます。生徒数は30名でした。5月には、良元村伊子志公会堂を借りて国語講習所を続け、翌年には公会堂を返し、生瀬、伊子志、蔵人、安倉、小浜の5箇所の分散教室で、「朝聯宝塚^{ちようれん}初等学院」として生徒数102名、教員5名で運営しました。校舎がほしいと、募金活動が始まりました。朝鮮には農作業を応援する農楽という芸能がありますが、民族衣装で楽器を持ちチームを組んで踊る「農楽隊」を編成し、朝鮮人が多く住んでいる地域を募金に廻り、トラックで遠く三田や川西まで足をのばしました。集まった40万円余りを基金に、昭和23(1948)年宝塚市美座の軍需工場跡を購入、土地と建物を確保して分散教室を統合し、「朝聯宝塚中央初等学院」としました。



▲募金にまわる農楽隊、この写真は1955年ごろ

その学校に昭和24(1949)年11月文部省による朝鮮学校閉鎖令が出されたとき宝塚でもオモニ(お母さん)が中心になって学校に泊まり込み、運動場に火を焚いて交替で仮眠をとりながら守り、存続することになりました(阪神教育事件と呼ばれている)。



▲阪神教育事件のとき守り存続した最初の校舎

昭和31(1956)年学校名を「宝塚朝鮮初級学校」とし、昭和39(1964)年からは幼稚園も併設し、昭和40(1965)年には、1,300万円の予算で木造2階建て、9教室と職員室、教員宿舎を備えた校舎が新築されました。兵庫県から「学校法人兵庫朝鮮学園」の認可をうけ、各種学校として位置づけられたのは、昭和42(1967)年、創立以来20年目のことでした。

校舎竣工から30年、阪神・淡路大震災が襲ってきました。校舎は半壊の状態だったのですが、新築のときの基礎工事がすべて同胞の奉仕で、丈夫で3階建てでも充分なほどだったので柱はしっかりしていました。復旧工事も保護者・同胞の協力で進み、2月には学校再開の運びになりました。



▲1965年からの宝塚朝鮮初級学校

平成13(2001)年11月4日、創立55周年の記念集会在学校で行われましたが、翌平成14(2002)年には、延べ900名の卒業生を送り出した宝塚朝鮮初級学校も、経済の悪化に加え、



▲近畿地方芸術競演大会1999年

生徒数の減少が学校運営を圧迫した結果、伊丹朝鮮初級学校と統合することになりました。3月24日廃校式がおこなわれ、同校56年の歴史が閉じられました。

宝塚市民との友好と理解のきずなとなった「宝塚朝鮮初級学校」が存在したことは、長く市民に記憶されつづけることでしょう。

※兵庫朝鮮関係研究会編「兵庫と朝鮮人」1985年・鄭鴻永『歌劇の街のもうひとつの歴史』1997年を参考にしました。